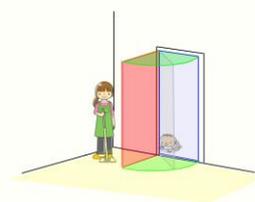
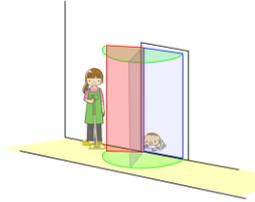


(継続課題)

NO.	34	技術開発 課題名	指挟み事故防止中心吊ピポットヒンジに関する技術開発		
事業者	・ 司工業株式会社 代表取締役 松井 尊男 ・ 司建設株式会社 代表取締役 松井 照夫				
技術開発 経費の総額 (予定)	約	14.6百万円	技術開発 の期間	平成 21年度～ 23年度	
<input type="checkbox"/> 1 住宅等におけるエネルギーの効率的な利用に資する技術開発 <input type="checkbox"/> 2 住宅等に係る省資源、廃棄物削減に資する技術開発 <input checked="" type="checkbox"/> 3 住宅等の安全性の向上性に資する技術開発					
背景・目的	日本の住環境の西洋化に伴って、室内ドアで指を挟む事故が増えています。 新型ヒンジは特許を取得したユニークな開閉機構がドアの外観を損なわず に事故の原因となる吊元と枠との隙間を抑える事で未然に防ぎます。 新型ヒンジはこれまで放置されてきた問題の解決に向けた決定打となります。				
■技術開発の概要 長円形の軸とハート形の軸受によるユニークな開閉機構は、その有効性と先進性が特許として認められ登録を果たしました。 本技術開発の成果が実用化し普及すれば、住宅の室内ドアでの指挟み事故は勿論、不特定多数の人が出入りする公共施設および商業施設における事故も防ぐ事が可能となります。 これは新型中心吊ピポットがドアの外観を損なうことなく事故を防ぐからです。 また重量30キロまでのドア装着可能で汎用性が高い事も一般住宅外への普及を後押しします。  <p>本技術開発は平成21年度に室内ドア向け通常型の開発を進め、その結果、事業化に十分耐えうる完成度をもった新型中心吊ピポットヒンジを作る事が出来ました。</p> <p>さらに平成22年度は、前年度開発した新型ヒンジの開閉角度が110度まで  という点を改良し、開閉角度が180度のドア  に装着できて事故を防ぐヒンジの開発を進めました。 その過程において前年の反省を踏まえより効率のよい開発が出来るよう、試作金型を多数取り金型から単個取り金型にした事で技術開発に要する費用を大幅に削減しつつ試作品を作る事が出来ました。 一方前年度に完成した110度開閉タイプのヒンジをいち早く広めたいとの思いから、Japan Home and Building Show2010へ出展し多くの業界関係者から貴重な御意見をいただきました。</p> <p>今年度はご意見の中でも希望する声が多かったトイレブース向けせり上がり(グラビティ)タイプ新型中心吊ピポットヒンジの開発に取り組みます。</p>					



←国民生活センターHPより

トイレブースのドアでの事故としては、過去に幼児が指を切断した例があり、自治体が施設の管理責任を問われて訴訟に発展しています。

指挟み事故はある日突然幼児やお年寄りが被害に遭うばかりでなく、大人が施設の管理責任を問われる加害者として関わる可能性があるのです。 新型中心吊ピポットヒンジは装着したドアから閉まる際の危険性を排除し事故を防ぐとともに、一般住宅外にも普及が進めば事故に対する認知度が高まり、危険性に気付いていない人への警鐘となり未対策のドアでの事故をも減らす事に貢献します。

総評

安全性を高めるアイデアを実用化するための開発で、ピポットヒンジの開発及び適用範囲の拡大が順調に進められている。本年度は、製品の普及を図ることが望まれるため、過去の開発を含めて適用範囲を明らかにすることを期待する。